

「鮭・酒・人情」市民と協働による「元気eまち村上市」づくり

はじめに

村上市は、平成20年4月1日に1市2町2村が対等合併し、本年で市制施行6年目を迎えました。新潟県の北端に位置し、市の北部から東部に掛けては山形県に接しています。面積は1174.24km²で、新潟県の総面積のおよそ9.3%を



毎年1000羽を超える白鳥が飛来

占めています。また、50kmにも及ぶ海岸線を有し、その中核として、特定地域振興重要港湾岩船港が地域産業や観光振興など地域の重要拠点としての役割を担っています。

平野部は、飯豊朝日山系に源を発する荒川・三面川および石川流域に広がり、肥沃な水田地帯として本市の農業生産活動の基盤となっています。「お暮場・大池公園」の大池には、毎年1000羽を超える白鳥が飛来し、日本一の清流荒川や三面川、大川には、鮭やサクラマス、鮎が遡上し、県内外からの太公望でにぎわいます。

「命の道」日本海東北自動車道の全線開通に向けて

本年4月、日本海東北自動車道の未整備区間である本市の朝日まほろばICから、山形県鶴岡市の

あつみ温泉ICの間41kmの事業化が決定しました。日本海沿岸東北自動車道(日沿道)の建設促進運動を始めて4半世紀、ようやくここまでたどり着いたという感があります。この道路の開通は、まさに市民の悲願であり、広域観光や物流などに大きな役割を果たすことはもちろん、高度医療を受けられる県立新発田病院までの所要時間が圧倒的に短縮されます。今後はこの「命の道」の、1日も早い全線開通に向けて活動するとともに、通過都市とならない魅力あるまちづくりを進めていく考えです。

本市は、「さけのまち」であり、また1つ目のさけは、魚の鮭。毎年春には鮭の稚魚放流式が行われ、秋には多くの鮭が遡上してきます。

鮭・酒・人情でおもてなし

本市は、「さけのまち」であり、また1つ目のさけは、魚の鮭。毎年春には鮭の稚魚放流式が行われ、秋には多くの鮭が遡上してきます。



村上市の観光キャラクター「サケリン」

伝統の鮭料理は100種類を超え、各家庭はもちろん、市内の料亭などではフルコースが味わえます。また、日本初の鮭の博物館「イヨボヤ会館(内水面漁業資料館)」があり、鮭の生態や伝統漁法の展示のほか、地下の三面川鮭観察自然館では、遡上する親鮭の群像も見学できます。

2つ目のさけは、日本酒の酒。本市には2つの蔵元があります。「メ張鶴」と「大洋盛」は数々の鑑評会での受賞歴を持ち、既に全国区の知名度を誇る、この地ではぐくまれてきた銘酒です。

3つ目のさけは、人情(なさけ)。本市への来訪客はリピーターが多いというのが特徴です。つまり、

初めて来られた観光客の皆さまに、ホテルや施設の従業員のみなならず、各商店や市民一人一人がおもてなしの心で接していることの表れではないかと思っています。今後も、この「鮭・酒・人情」によるおもてなし観光を進めてまいります。

青砥武平治 生誕300年祭を開催

本市中心部をゆるやかに流れる三面川。この三面川と鮭の歴史は古く、長年にわたって築かれた鮭文化があり、市民が鮭に寄せる思いはことのほか深いものがあります。毎年、11月11日を「鮭の日」と



子どもたちも参加する鮭の稚魚放流式

定め、鮭の恵みに感謝するとともに鮭魂祭を開催しています。

鮭は村上藩の貴重な収入源でしたが、江戸時代中期には乱獲などが原因で漁獲量が激減しました。鮭には、

産卵のために生まれた川に帰るという「母川回帰性」がありますが、この特性に最初に着目したのは青砥武平治という村上藩の下級武士でした。武平治は三面川に種川と呼ばれる、産卵のための人工河川を設け、産卵が終わるまで禁漁とする「種川の制」を考案し、自然ふ化増殖の偉業を成し遂げました。誰も増殖など思いも及ばなかった今から250年前のことです。これが、村上藩の立て直しに寄与したばかりではなく、子弟教育や慈善事業にも貢献した史実が残されています。

「愛郷無限」の思いを大切に

本市では、全国的な課題である少子高齢化問題に対応するため、本年度、「人口減少問題対策委員会」を設置し、空き家バンク制度などと合わせて「定住の里づくり」に取り組んでいます。また、地域の元気づくりを支援するため市税の1%を活用し、市民協働のまちづ

くり事業も進めています。これらは、まだ1つの点でしかありませんが、それを線つなぎ大きな面をつくっていくことで、地域の活性化や経済効果が生まれてきます。自分たちの地域に誇りと愛情を持ち、「元気eまち村上市」の実現に向け、愛郷無限の思いを大切に、これからも市政の発展に努めてまいります。

プロフィール

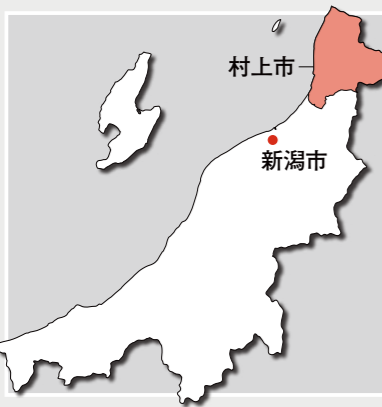
- ◆ 面積 1174.24km²
- ◆ 人口 6万5915人
- ◆ 世帯数 2万2942世帯

〔将来都市像〕「住んでいいまち」「訪ねていいまち」元気eまち。村上市〔まちの特徴〕全国14位の広さを誇る豊かな自然を有し、町屋づくりの家々が残る城下町。新潟県の北端に位置する

〔市町村合併〕平成20年4月1日、旧村上市と荒川町、神林村、朝日村、山北町が対等合併



村上市長 大滝平正



〔特産品〕村上牛、鮭加工品、村上木彫堆朱、村上茶、日本酒(メ張鶴大洋盛)、天然塩、岩船産コシヒカリ〔観光〕瀬波温泉、笹川流れ、おしゃざり会館(村上市郷土資料館)、イヨボヤ会館(内水面漁業資料館)〔イベント〕城下町村上町屋の人形さま巡り・屏風まつり、村上・笹川流れ国際トライアスロン大会、村上市元旦マラソン大会

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

「元気な狭山をみんなのでつくる」を 合言葉に

はじめに

狭山市は、荒川へ注ぐ入間川の兩岸に開けた低地とこれに連なり緩やかに広がる台地からなり、地域の面積は約49㎓で、埼玉県の南西部にあつて東京都心から35〜40kmの距離に位置しています。市内には、入間川や不老川などの河川が流れているほか、入間川の河岸段丘に沿って斜面林が連なり、また、市の南部には江戸時代の新田開発の名残をとどめる畑や平地林が広がり、緑豊かな田園景観を形成しています。

本市の誕生は、昭和29年7月1日で、1町5カ村の合併により、埼玉県内15番目の市として人口約3万1000人で発足しました。昭和39年に川越・狭山工業団地が操業を開始すると、県内トップク

ラスの工業都市へと変貌するともに、武蔵野の豊かな自然環境と首都近郊に位置する地域特性から住宅都市としても発展し、昭和50年には人口も10万人を突破しました。平成8年には、首都圏中央連絡自動車道(圏央道)狭山日高インターチェンジが完成したことで、交通の利便性も高まり、現在では県下有数の製造品出荷額を誇るとともに、人口15万人余を擁する埼玉県西部の中核都市の一つとして発展しています。

市内には西武新宿線と西武池袋線の2路線があり、都心まで約40分で行くことができます。市の玄関口となる狭山市駅周辺は、狭山市民の長年の願いであった西口周辺地区の市街地再開発事業によって、平成24年6月、愛称スカイテラスとして、産業労働センターや

市民活動の拠点である市民交流センター、また、市民の憩いの場である市民広場が完成し、まちの拠点として生まれ変わり、市の自慢の一つとなっています。

狭山茶の信頼回復に向けて

狭山茶は、本市をはじめ入間市や所沢市などを主産地とする埼玉県産茶の総称であり、温暖な場所に生育するお茶にとって、狭山茶産地は、国内の大規模な茶産地としては北限になります。地元の茶作り歌で「色は静岡、香りは宇治よ、味は狭山とどめさす」と謳われていたように、茶葉の風味が甘く濃厚な、コクのある「味の狭山茶」として親しまれています。

市内には狭山茶の製造直売型の店舗が多く、新茶の時期には「新茶販売」ののぼりがたくさん見られ



越冬茶葉が厚く、コクのある味が特色の「狭山茶」

工業の活性化を目指し

人口減少は地域社会の中でもさまざまな問題を生じさせ、地域活

力の低下も懸念されることから、本市でも大きな課題としてとらえており、子育て支援や福祉はもとより、都市基盤整備や協働のまちづくりなど、都市としての魅力の向上に向けて、総合的に取り組んでいく必要があると考えております。

その取り組みの一つとして工業の活性化が挙げられ、事業所が新たに市内に進出する場合や既存の工場を増設する場合の負担軽減に向けて、工場立地法の地域準則条

例の制定を目指しています。事業所が工場を拡張する場合、規模に合わせて「緑地等」も増設することになります。この緑地等の負担率を軽減することや、敷地内で緑地等の設置が困難な場合は一定条件を満たせば、不足分を敷地外に設置することなどを可能とするものです。

協働のまちづくりに向けて、「狭山元気大学」を開校

本市では、人口減少や少子高齢化に負けないまちづくりを進めるため「元気な狭山をみんなのでつくる」を合言葉に、市内8カ所の地区センターを中心に、地域住民の交流やまちづくり活動を進めています。

団塊の世代に代表される方々が、豊富な知識や経験を持って地域に戻ってきていることから、これらを地域に生かすため、「狭山元気大学」を平成23年5月に開校しました。また、平成24年7月には、多



協働を担う人材育成と、学びの成果を地域に生かす仕組みづくりを目指して平成23年5月に開校した「狭山元気大学」

くの皆さまのご協力の下、狭山市協働ガイドラインを策定いたしました。その中で私は、「協働を」市民や市民団体と行政が、持てる知識や技術や資金を出し合って、市民福祉の向上と自分自身の満足と生き甲斐を得ることであると定義いたしました。このガイドラインをもとに市民と行政との信頼関係をより成熟させ、元気な狭山をつ

平成26年には市制施行60周年を迎えます。市の将来像である「緑と健康で豊かな文化都市」の実現に向けて、行財政改革に取り組みながら、各種の施策を計画的に推進してきましたが、今後とも、時代の潮流を踏まえ、若者の定住化や職住近接のまちづくりなどを念頭に置き、施策の選択と集中の下、市政運営に取り組みまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 49.04㎓
- ◆ 人口 15万5154人
- ◆ 世帯数 6万5541世帯

〔将来都市像〕緑と健康で豊かな文化都市

〔まちの特徴〕市域の中央を入間川が流れる豊かな自然環境に恵まれた住宅都市としての特徴と県下有数の製造品出荷額を誇る工業都市としての特徴を併せ持つまち



狭山市長 仲川幸成



〔特産品〕狭山茶、里芋、ほうれん草
〔観光〕智光山公園(こども動物園)、狭山稲荷山公園、堀兼・上赤坂公園、入間基地航空祭
〔イベント〕狭山新茶と花いっぱいまつり、狭山市入間川七夕まつり、さやま大茶会

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

豊かな自然と食に恵まれた田園都市 健康寿命日本一を目指して

豊かな自然と

豊富な食材の地、丹波市

平成16年11月1日に合併して誕生した丹波市は、兵庫県の中央東部に位置し、緑多い山々に囲まれ、田園風景が広がる自然豊かなところです。

大阪や神戸からは、鉄道や自動車です。約1時間足らずの距離にあり、また播磨地域と但馬、丹後を結ぶ経済と文化が交差する交通の要衝でもあることから、人と自然の交流文化都市、「こころ安らぐ」丹(まごころ)の里」として、皆さんをお迎えしています。

年間の寒暖差、昼夜の温度差が激しい特有の気候風土から質が高い米や黒豆、大納言小豆、栗、有機野菜など、丹波ブランドと呼ばれる食材に恵まれていることも魅

力の一つです。

国内最大級の恐竜化石発見

丹波の自然、気候風土がもたらしてくれたものは、食だけではありません。今から1億1000万年前に生息していたと思われる大きさ約17mもある国内最大級の草



ちーたんの館(国内最大級恐竜化石とゆるキャラ「ちーたん」(右下))

食恐竜の化石が平成18年8月に発見されました。丹波竜と命名したその化石は、全国でも初めての大発見であり、本市では「恐竜を活かしたまちづくり課」を設置し、地域と連携を図りながらまちづくり、地域づくりの核として活用しています。

丹波竜をモデルにしたゆるキャラ「ちーたん」の誕生や化石の展示やゲームで楽しく恐竜の世界を学べる拠点施設「丹波竜化石工房ちーたんの館」の整備、そのほかストラップや

デルにしたゆるキャラ「ちーたん」の誕生や化石の展示やゲームで楽しく恐竜の世界を学べる拠点施設「丹波竜化石工房ちーたんの館」の整備、そのほかストラップや

ぬいぐるみ、タオルなどちーたんグッズもそろえPRしています。今後も丹波竜をはじめとして、「あるもの」磨きで、丹波市の魅力を発信していきたいと考えています。

健康寿命日本一のまちづくりを目指して

さて、本市は健康寿命日本一を目指しているところです。

まちづくりの基本は、人づくりであり、市民一人一人が生き生きと暮らし、安心して働くためには、何よりも健康がその源となります。そのため予防施策を中心とした「健康たんば21計画」を策定し、健康寿命日本一を目指そうというものです。

「栄養・運動・こころ・たばこ・健康管理」の5分野を定め、各地域へ出向き、健康教室を開催しております。この教室は、地域の健康課題を見つけ、情報を共有し、個人、家族、地域の誰もが取り組める健康づくりを共に考える参加型

であり、地域づくりの一つとして位置付けています。

その結果、ウォーキングや健康標語の募集など地域ぐるみで健康づくりに取り組む地域が増えるなど、市民の意識が高まってきているのを感じております。

「ぐっすりすやすや」でこころも健康に

また、近年はこころの健康づくりも欠かせないものとなっていきます。アプローチが難しい分野ですが、本市では「睡眠」に着目し、「ぐっすりすやすや」を合言葉に睡



健康寿命日本一を目指して、ラジオ体操を行う丹波市民

眠運動を展開しています。質の高い睡眠はすべての保健指導につながり、子どもから高齢者まで取り組むことができるこころの健康づくりであるといえるからです。

ここで重要なのは、この運動は担当部だけでなく横断的な取り組みが不可欠であるということです。ぐっすりすやすや睡眠運動を中心にして健康部はもちろん、教育委員会、まちづくり部、福祉部、産業経済部などそれぞれの分野と連携しなければ、市民との一体感も確かなものとなりません。

そのような本市の健康寿命日本一への取り組みには、全国的にも注目いただいているところで、本年2月には東京都で開催された全国市町村保健活動専門研修会においてその取り組み状況を発表させていただき、また10月には、大分県で開催される第75回全国都市問題会議でもパネリストとして参加させていただく予定です。

20年先30年先を見据えたまちづくり

私は、丹波市合併以来、市政をお預かりして3期目を迎えております。



丹波市長 辻 重五郎



豆、丹波大納言小豆、山の芋、鹿肉、有機野菜、米
〔観光〕 柏原藩陣屋跡、達身寺、興禅寺、青垣の杜(パラグライダー)、丹波電化石工房ちーたんの館、九尺ふじ
〔イベント〕 丹波市産業交流市、兵庫・丹波もみじの里ハーフマラソン大会、柏原藩織田まつり、丹波かいばらうまいもんフェスタ、愛宕祭、案山子まつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

プロフィール

- ◆ 面積 493・28km²
- ◆ 人口 6万8616人
- ◆ 世帯数 2万5208世帯

〔将来都市像〕 人と自然の交流文化都市
 〔まちの特徴〕 豊かな自然と食、豊穡の大地に恵まれた田園都市
 〔市町村合併〕 平成16年11月1日、旧氷上郡6町(柏原町、氷上町、春日町、青垣町、山南町、市島町)が合併
 〔特産品〕 丹波布、丹波栗、丹波黒大豆

2期8年間の実績を礎に、健康寿命日本一をはじめ、これまで取り組んできました施策の総仕上げを行いたいと考えております。さらには、現在私たちがはかっている経験したことのない少子高齢化、人口減少社会を迎えており、その対応は喫緊の課題であると認識しています。本市におきましては、不妊治療費の上乗せ助成や中学3年生までの

の子ども医療費無料化をはじめ、若手職員によるプロジェクトチームを編成し、若者に魅力あるまちをテーマに未来づくりに向けて取り組んでいるところです。今後も国内外の経済社会情勢を的確にとらえ、時代の先を読みながら若者に魅力ある「誇り」をもって住んでよかった丹波市」を目指してさらに飛躍したいと考えております。

わが

「ひと・まち・自然にやさしい高梁」を 目指して

歴史まちづくりを推進

高梁市は古来、「備中国」の中核を占め、近世は幕藩体制の下、備中松山藩を中心に繁栄し、近代以降も政治・経済・教育の中心として発展してきました。

現存天守を持つ山城としては最も高い標高(430m)に位置する備中松山城(国重文)が、市街地北の臥牛山頂上付近にそびえ、市のシンボルとなっています。

臥牛山のふもとには、国の名勝・頼久寺庭園などの歴史的観光地が集中し、武家屋敷や商家の町並みが広がる城下町は「備中の小京都」と呼ばれています。

銅とベンガラの生産を通して繁栄した成羽町吹屋地区には、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている、吹屋ふるさと村の

町並みがあります。ベンガラの赤褐色の古い家が軒を連ね、そこへたたずむだけで、古き時代へとタイムスリップしたかのような気分を味わえます。日本最古の現役校舎であった吹屋小学校が平成24年3月に閉校し、同校が注目を集めたことと相まって、多くの観光客が吹屋地区を訪れています。同地区は平成24年6月には国土交通省の都市景観大賞を受賞しています。

伝承芸能では、江戸時代末期に本市で誕生した備中神楽が各地に広く継承されており、ストーリー性豊かな神話劇は、人気が高く、地域の祭りやイベントには欠かせないものとなっています。

このほかにも、市内各地に歴史的建造物や文化遺産、伝統行事などが数多く受け継がれており、こうした歴史的遺産の保存や景観整

現代日本にこそ、方谷の教えを生かしていくことが必要であり、大勢の人に知っていただきたいと思っています。

なお、本市では、方谷の教えを行政に生かすため、本年4月の機構改革で「理財課」と「産業振興課」を新設しました。理財課は方谷の経済論である「理財論」にならない、市有財産の有効活用を積極的に図り、産業振興課では企業支援や観光交流の促進を一層充実させることとしています。

製品やたばこなど特産品の開発で地場産業を活性化させ、藩の借金10万両をわずか7年で返済し、逆に10万両を蓄財。勝静が幕府の老中を務めると政治顧問として幕政にも関与しました。

方谷から学ぼうと備中松山藩へは、長岡藩の河井継之助をはじめ、他藩からも来遊が絶えなかったといわれています。

こうした方谷の偉業を顕彰し、その実績を学ぼうと、平成22年9月、本市において官民が協力して「方谷さんを広める会」が発足。その



なでしこリーグで活躍する「FC吉備国際大学シャルム」

の後、全国各地で顕彰団体が増え、現在、「雲中の飛龍山田方谷」NHK大河ドラマ放映実現を求める全国100万人署名運動が実施されています。国も地方も多額の財政債務を抱える

高梁で生れ育った「なでしこ」FC吉備国際大学シャルム

公私協力型で誘致した吉備国際大学が、平成2年に本市に開学し、現在、約2500人の学生が勉学やスポーツに励んでいます。その中で女子サッカー部は、今季から国内トップの「なでしこリーグ」に昇格し、全国各地で熱い戦いを繰り広げており、本市の知名度アップにも大きく貢献してくれています。そして、彼女たちの活躍に多くの市民が熱い声援を送っています。本市では、このシャルムを起爆剤とし、全国規模の自転車の登坂レース「ヒルクライムチャレンジシリーズ」

備を進め、まちづくりに生かしていくことを目的に、平成22年に「高梁市歴史的風致維持向上計画」を策定し、国の認定を受けました。今後10年間にわたりハード・ソフト両面において施策の展開を図り、本市が目指すまちづくりの柱である「地域文化と心豊かな人を育むまちづくり」を実効的に推進していきたいと考えています。

定住の促進

本市の最重要課題は、人口減少に歯止めを掛け、定住の推進を図ることです。

中山間地域で平地部が少ないことに加え、人口が集中する県南都市から30分〜1時間で通勤・通学できることもあり、これまで20〜30歳代の転出が多く、出生数減少にも影響しているものと分析して

ズ」の開催や全国大会の誘致などでスポーツ交流を推進し、交流人口100万人プロジェクトとして展開しています。

「アツイゼ! 高梁市」を全国に発信

中心市街地は山々に囲まれた盆地のため、初夏から真夏に掛けては気温が上昇しやすく、本年は6月末までに、その日の最高気温が

こうしたことから、本市では、定住対策および子育て支援施策をあらゆる施策と関連付けて推進しています。具体的には、18歳までの医療費無料化、子育て世帯向け市営住宅建設、子育て応援企業奨励金制度、地元大学との協働による子育て支援センター設置、高校生バス通学費助成、住宅新築・リフォーム助成などです。

近年では人口の社会減が緩やかになり、こうした施策が一定の効果を生み出したものと考えており、今後さらなる定住施策の充実を図り、誰もが住み続けたいまちを目指していきます。

郷土の偉人 山田方谷を大河ドラマに!

本市が誇る偉人に、幕末に備中松山藩の財政改革に成功し、子弟教育に尽力した陽明学者・山田方谷(1805年〜77年)がいます。方谷は、藩主板倉勝静の下、鉄

プロフィール

- ◆ 面積 547.01km²
- ◆ 人口 3万3787人
- ◆ 世帯数 1万4765世帯

〔将来都市像〕ひと・まち・自然にやさしい高梁

〔まちの特徴〕県中西部に位置し、県下三大河川の一つである高梁川が貫流しており、中心部は城下町の面影を色濃く残す歴史文化の薫る自然豊かなまち

〔市町村合併〕平成16年10月1日高



高梁市長 近藤隆則



梁市、有漢町、成羽町、川上町、備中町が対等合併
〔特産品〕ニューピオーネ、桃太郎トマト、シャクヤク、アユ、高梁紅茶、ゆべし
〔観光〕備中松山城、頼久寺庭園、吹屋ふるさと村
〔イベント〕備中たかはし松山踊り、備中名物成羽愛宕大花火、マンガ絵ぶたまつり、風ぐるまフェスタ、ヒルクライムチャレンジシリーズ

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。